

みつばち・ウイルス性疾患

慢性みつばち麻痺病の発生事例と浸潤調査

京都府中丹家畜健衛生所

種子田功 畑段千鶴子

【はじめに】管内養蜂家で、慢性みつばち麻痺病を府内で初めて確認したので概要を報告。【病性鑑定】平成19年3月、5群飼養養蜂家で成虫の死亡が多発し立入検査、病性鑑定を実施。1群が全滅し、隣接した1群に成虫の死亡、飛翔不能、体毛消失等の症状が見られた。剖検及び中腸内容のギムザ染色でダニ寄生、ノゼマ病を否定。病原検索として逆転写ポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)法を実施、慢性みつばち麻痺病ウイルス(CBPV)遺伝子を検出。病理組織学的検査で封入体の形成は見られなかったが、臨床症状等をあわせ本病と診断。【浸潤調査】管内養蜂家に情報提供するとともに57戸、61蜂群を対象にRT-PCR法による浸潤調査を実施。CBPVの浸潤は認めなかった。【まとめ】これまで国内で報告が無かったRT-PCRによるCBPV検出は、本病の診断、調査に有用。本事例は発生要因にダニの関与が疑われ、引続き衛生指導を実施するとともに、CBPVの調査を継続、情報の蓄積に努めたい。